



# 給食だより

東京農業大学稲花小学校  
発行日 2023年4月21日  
発行人 校長 夏秋啓子  
栄養教諭 梅本葉月

4月6日(木)の入学式、元気な72名の1年生と保護者の皆様が、農大稲花小に仲間入りしました。7日(金)の始業式では、2年生から5年生までがそろって、1年生を拍手で迎えました。そして、農大稲花小の給食は、始業式の日からはじまりました。給食は本校における食育の要の一つです。安心・安全な給食を提供し、食を通して、農業、環境、文化、人々への感謝など体験を通して学び、考える機会となることを願っています。

## 1年生 初めての給食

4月7日(金)は、今年度最初の給食でした。1年生にとっては、初めての給食です。まず、交流室に集まった1年生は、手を洗うことの大切さや、アレルギーについて、勉強しました。洗った手を拭くためのきれいなハンカチは必需品です。毎朝、ご家庭でも点検をしていただくようお願いいたします。また、食物アレルギーのある子どもは名札をつけていますが、食物アレルギー除去食の人の給食には絶対にさわらないことも大切な約束です。食物アレルギーのある子ども、無い子どもも、食物アレルギーについての理解は、本人あるいはお友だちの命を守るためにも欠かせません。

1年生の子どもたちは、給食室の見学もしました。給食室ではたくさんの方々が、子どもたちの給食を調理しています。家庭とは違う、大きな鍋、おたまやししゃもじなどに目を見張る子どもたちでした。多くの方々の手によって、おいしい給食が提供されています。ご家庭の食事と同じです。安心・安全な食事ができることに感謝できる子どもに育ててまいりましょう。

## しっかり噛んで食べましょう

本校では、「いただきます」から20分間は食べるための時間です。どのような献立であっても、ゆっくり噛んで、味わって食べることになっています。これはご家庭でも同じです。朝ごはんをしっかりと、ゆっくりと食べていますか。夕ご飯も、あまり遅くならない時間に、家族とともに温かい雰囲気の中で食べているでしょうか。なお、本校では「いただきます」が遅れたら、「ごちそうさま」の時間も繰り下げます。そのためにも、配膳が滞りなくできるように、子どもたちにも協力してもらっています。

## 配膳や下膳も大切です

1年生の配膳は、教職員や4年生に手伝ってもらっています。5月の連休明けからは、少しずつ、自分たちで配膳します。4年生は、1年生にやさしく配膳し、1年生は4年生に「ありがとうございます」とお礼をいっているのも、ほほえましい光景です。「1年生が、かわいいです」という上級生からの声が聞こえます。「自分で、ご飯をよそってみたいです」という1年生もいます。1

年生から5年生まで、それぞれのペースで配膳そして下膳ができるようになる日が、楽しみです。ご家庭でも、日頃から、配膳や下膳のお手伝いをする機会を積極的に作っていただくようお願いいたします。

## ご飯とお魚

農大稲花小の給食では、献立表をご確認いただくとおわかりいただけるように、主食がご飯という日が多いです。また、魚が登場する日も多いのです。これは、農大稲花小の給食の特徴といってもいいでしょう。

1年生の中には、魚に慣れていない子どももいますし、箸を使ってつまんで食べることが難しい子どももいます。しかし、多様な魚を味わうことで、食べられる魚の幅も広がっていきます。友だちが食べているのを見て、一口だけ食べてみる という体験ができるのも、給食ならではの楽しみです。

4月19日(木)はサバの味噌煮、小松菜の胡麻和え、新じゃがの磯和え、沢煮椀、そして牛乳でした。このように、本校の給食の多くは、子どもが好きなメニュー、食べやすいメニューだけをそろえた給食ではありません。サバの味噌煮そのものもそうですし、一緒に入っている生姜は大丈夫だったか、少し心配しましたが、「ショウガも食べたよ」と教えてくれる子どももいました。沢煮椀はどんなものなのか、知らない大人だっているでしょう。農大稲花小の子どもたちには、毎日の給食の中で、たくさんの食材や料理法を体験してほしいと願っています。



4月19日(水)の給食

## 給食当番のルール

給食当番は、「エプロン」・「三角巾」・「マスク」を忘れずに持ってきてください。清潔なものに限ります。忘れてしまった子どもは、残念ですが、給食当番はできません。また、皆の食事を扱いますので、体調に不安がある人は当番をやってもいいかどうか、先生と相談することも大切です。食物アレルギーのある人も同じです。自分自身のためにも、当番ができるかどうか考え、先生とも相談するようにしてください。

ご家庭でも、体調に不安があるときは、まず登校について慎重に判断してください。その上で、登校後に体調が悪くなったときも学習や給食当番で無理することなく、先生に相談するようお願いいたします。